

第1学年3組 美術科学習指導案

日 時 平成24年11月29日(木)

場 所 美術室

指導者 濱岡 光也

1. 題 材 『楽しい文字をデザインしよう』～風をイメージして～

(全7時間)「A表現(2)(3)」「B鑑賞」

2. 目 標

○デザインされた文字の美しさや遊び心を理解し、伝えるデザインへの関心を高め、形や色彩の効果を生かし、美しさや見る人が楽しくなるよう創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じ取ったりすることができる。

3. 題材設定の理由

・私たちの生活の中にはデザインされたものが数多く存在し、暮らしと密接に関係している。そして、過去から現在に至るまでに少しずつ工夫が加えられ進歩してきている。デザインされた商品が溢れている今、私たちは自らの発想で新しい物を考えたり工夫を加えたりする必要性を感じず、既成のもので満足しているように思う。このデザイン全盛の時代に発想力を養い、より美しく、楽しく、そして生活を豊かにするためにどのような工夫をすればよいかを考えさせることは大切なことと考える。本題材はデザイン学習の発展的題材として文字をデザインするものである。文字のもつ意味を考え、ユーモアやウィットに富んだ自分なりの表現を加えることで、文字をより美しく、また、意味を他者に伝えるために創意工夫して表すものである。今回は生徒が自由に文字を選ぶのではなく、共通のテーマとして「風」という文字を設定し、イメージを思い浮かべて表現させる題材である。形として目に見えないものを想起し考えることは難しいが、自分が体験したことや視覚や触覚で感じたことを想起し、工夫させることでよりオリジナリティのある形が生まれる。これはデザインの表現ではとても大切な要素であり、中学校1年生のこの時期にその大切さを感じ取らせ、表現させることは今後の生活にプラスになるものと考え。また、発想から構想を練り、作品として仕上げるデザインの制作過程は、創造することの喜びや達成感を味わうことができ、これからの表現活動により興味をもって主体的に取り組んでいけるものと考え。

・<生徒観は個人情報のため省略>

・既習内容として、本題材の前には基礎的なレタリングの表現と色彩学習に取り組んでいる。レタリングの学習では新聞紙から色々な書体の文字を探し、書体の特徴や印象を感じとり、和文の基本的な書体である明朝体とゴシック体を表現させた。色彩学習ではポスターカラーの使い方と色の三要素および色の性質や感情などを、主に表現活動を通して体験的に理解させた。第一次の導入ではユーモアやウィットに富んだ文字の作品を鑑賞させ、作者の意図や工夫について感じ取らせると同時に、デザイン化する上での方法についてグループで発見させる。第二次ではテーマである「風」から連想されるイメージを日常で体験したことから想起させ、風の名前の意味だけにとらわれることなく、イメージの広がりをもたせながら構想を練らせた。また、風からうけるイメージなどを一度言葉としてワークシートに記入し、自分の考えを整理し確認させ、グループで話し合う機会を設けることで、他者に伝えたり、他者の意見を受け取りながら自分の表現したいことを深めさせる。デザインの学習においては発想・構想の過程がその後の生徒の活動に大きく影響してくるので、制作段階に入る前にグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、個々の生徒の学びが成立するよう展開していきたい。そして、これまで学んできた色彩や形の学習を活かし、自分の広げたイメージを表現するために必要なことを吟味した上で創意工夫をさせる。鑑賞ではお互いの作品を鑑賞し合い、デザインされた文字の造形的な美しさや楽しさ、作者の意図や表現の工夫などを主体的に感じ取らせたい。

4. 題材の評価規準および学習活動に即した評価規準

(1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>表現・美術の創造的活動の喜びを味わい、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり、材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。</p> <p>鑑賞・美術の創造的活動の喜びを味わい、美しさや楽しさのある文字のデザインに関心を持ち、主体的によさや美しさを感じ取ろうとしている。</p>	<p>・感性や想像力を働かせて、風のイメージ、伝えたい内容、見る人の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして分かりやすさや美しさ、楽しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p>	<p>・感性や造形感覚などを働かせて、和文の書体を基本とし、美しさや楽しさを追求した文字の形やイメージした色彩などの表し方を身につけ、意図に応じて材料や用具などを生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。</p>	<p>・感性や想像力を働かせて、伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いなどを感じ取り見方を広げたり、デザインされた文字の特性やよさなどに気づいたりしている。</p>

(2) 学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>表現 関心① 風のイメージなどの伝えたい内容を分かりやすさや美しさ、楽しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。</p> <p>表現 関心② 形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。</p> <p>鑑賞 関心③ 伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いなどを感じ取り、見方を広げたり、デザインされた文字の特性やよさなどに関心を持ち、自分の思いや考えをもって味わっている。</p>	<p>発想① 風のイメージなどの伝えたい内容を人に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさ、楽しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p>	<p>創造① 和文の書体を基本とし、美しさや楽しさを追求した形やイメージを表す色彩などの表し方を身につけ、意図に応じて材料や用具などを生かして、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。</p>	<p>鑑賞① 伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いなどを感じ取り、見方を広げたり、デザインされた文字の特性やよさなどに気づいたりしながら、自分の思いや考えをもって味わっている。</p>

5. 題材の指導計画と評価計画

	●学習のねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法・留意点
		関心	発想	創造	鑑賞	
1	<p>●伝えるための表現について理解し、そのよさなどを味わい、工夫に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫などについて話し合う。 ・文字を美しく楽しく表現するための方法について気づく。 	○				<p>関心③ 伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和、作者の思いや工夫などを感じ取ろうとしながら、伝えるための表現について関心をもっているか評価する。(鑑賞の様子)</p>
2 (本時) 3	<p>●自分が体験した風のイメージを考えて発想し、美しさや楽しさなどを考えて構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやアイディアスケッチなどにより構想をまとめ、見通しをもって表現できるようにする。 	○	○			<p>関心① 風のイメージを他者に伝えたり他者の意見を取り入れたり、分かりやすさや楽しさ、楽しさなどを考えて表現しようとする意欲や態度を評価する。(活動や制作の様子)</p> <p>発想① 伝えたい内容について、形や色彩などの効果を考えながら、表現の構想を練っているか評価する。(アイディアスケッチ)</p>
4 5 6	<p>●構想をもとに自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して制作する。 <p>●構想を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想に改善を加え、表現方法を工夫しながら制作する。 	○		○		<p>関心② 形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを考えながら表現しようとする意欲や態度を評価する。(制作の様子)</p> <p>創造① 自分の表現意図に合うように材料や用具を活用しながら表現しているか評価する。(制作の様子・制作途中の作品)</p> <p>発想① 表現の意図がより明確になるように、形や色彩の効果について考えながら構想を深めているか評価する。(制作途中の作品)</p>
7	<p>●お互いの完成作品を鑑賞し、説明しあうことにより表現の工夫などを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品から、作者の意図と表現の工夫、伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和を感じ取り、自分の価値観をもって味わう。 	○			○	<p>関心③ 伝えたい内容と形や色彩などの美しさの調和、作者の思いや工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっているか評価する。(鑑賞の様子)</p> <p>鑑賞① 他者の完成作品を鑑賞し、根拠を基に発言しているかなどを見取る。(発言内容・ワークシート)</p>
	<p><授業外> 完成作品からの評価 ワークシートからの評価</p>		○	○	○	<p>発想① 創造① 鑑賞① ※発① 創① については、完成作品から再評価し、授業内での評価を確認し、必要に応じて修正する。</p>

6. 本時の学習

(1) ねらい

体験した風を思い起こしてイメージを広げ、他者に伝える活動に主体的に取り組み、アイディアスケッチをしながら文字のデザインの構想を練ることができる。

(2) 展開 (本時2時間目)

◆学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援	評価【方法】
<p>◆最近、どんな風が吹いていたかを思い出し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒い風・北風・雨風 <p>◆自然に吹く風を四季ごとに思い起こし、どんな風があるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春：春風、そよ風、 ・夏：熱風、やませ ・秋：台風、秋風 ・冬：木枯らし、北風、 <p>◆印象に残っている「風」を思い起こし、ワークシートに記入する。また、連想することを言葉で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強風、木陰で感じた風、すきま風 ・木が揺れる、葉っぱが舞う、瓦が飛ぶ ・痛い、寒い、ピリピリ ・エアコンや扇風機の風もある <p>◆グループ内でイメージできた風について連想したことなどを話し合う。</p> <p>◆作品を作っていく上での条件を聞き、ワークシートにアイディアスケッチをする。</p> <p>●本時の学習を振り返り、次時の課題を確認する。</p>	<p>○最近体感した風のことを思い起こさせることで、風に対するイメージをはっきりもたせる。</p> <p>○春・夏・秋・冬と四季をおってどんな風が吹いているかを考えさせ、季節によって感じる風は違うことを思い起こさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後でワークシートに書き上げるのであまり時間をかけないようにする。 ・「北風」を例に取り上げ、発言を求めながらどんな風かをイメージさせる。 <p>○肌に当たる感覚や、風によって起こる周りの様子の変化に注目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然現象の風だけでなく、人工的に吹く風があることも告げる。 <p>○風のイメージが想起しにくい生徒が発想できるように、グループ内で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を聞き、参考になることなどをワークシートにメモさせる。 <p>○表現する上での条件とデザインのポイントについてワークシートと参考資料を見せながら伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・画面は正方形（15cm）を基本とし、正方形に収まらないときは縦横の幅を変えてもよいこと。 ・文字や背景はポスターカラー等の絵の具を使って表現すること。 ・厚紙や紙粘土を使ってもよいこと。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・構想が進まない生徒には、思い浮かんだ風に対するイメージについて対話しながら発想を広げさせるよう支援する。 ・独自の発想や工夫をしているところを積極的に取り上げて認めていく。 <p>○話し合い活動の様子や感想を発表させる。</p>	<p>関① 自分がイメージした風のことに ついて他者に伝えたり、他者の意見に関心をもって聞いたりなど主体的に活動しようとしている。【観察】</p> <p>発① 風に対するイメージを広げ、想起したことを形の中に効果的に取り込み、分かりやすさや楽しさなどを追及しながら構想を練っている。【アイディアスケッチ】</p>

(3) 評価

生徒の姿 評価の観点	十分満足と判断される生徒 の姿の具体例	おおむね満足と判断され る生徒の姿の具体例	支援を必要とすると判断される 生徒の姿の具体例と支援
美術への関心・意欲・ 態度	自分がイメージした風のこと について分かりやすく伝 え、他者の意見に耳を傾け、 イメージが湧かない生徒に アドバイスを与えるなどし ている。	自分がイメージした風のこと について他者に伝え、 他者の意見に耳を傾ける などしている。	どんな風が印象に残って いるかを想起させ、自分 の言葉で伝えるよう促 す。他者からの助言をワ ークシートに記入させ る。
発想や構想の能力	自分の体験をもとにして風 のイメージを広げ、伝える ために形の効果を考え、洗 練された美しさや見る人が 楽しくなる要素を踏まえて 構想を練っている。	風のイメージをもち、伝え るために形の効果を考え、 分かりやすさや楽しさを 追求しながら構想を練っ ている。	自分が抱いている風のイ メージと形がもたらす効 果を確認し、構想を練る ための具体的な手立てを 示す。